



東京芸術大学大学院 藪内佐斗司教授作

赦世覚者天皇出現誓願

すめらみこと

皇三重塔 建立趣意

人類の未来は暗い——今、世界中の多くの識者たちが、共通してこう指摘し始めています。

環境問題を初めとする、根本解決不可能と思われる数々の重大問題が、人類の行く手に大きな立ちどまりを齎しているからです。

「人生の真実」を何一つ知らないままに、不自然な物欲や金銭欲ばかりを無制限に煽り立てる、愚劣極まりない近代西洋物質文明は完全に行き詰まってしまっているのです。

そんな今日、これまでの常識の全てを根柢から覆す、わが国神代（縄文時代）の、戦争や競争など一切なかった純粹精神文明の奥義が、長い長い眠りから覚めて人知れず蘇ろうとしています。

全体は個の幸せのために、個は全体の幸せのために——こんな自然界の根本原理を政の基本にして古の日本人を教導し、理想の王道国（和の国）の礎を築いたとされるのが、国祖アマテラスです。

そんなアマテラスの大きいなる和の心を心とする本然の天皇（覚者天皇）が、神代以降三十年以上も閉じ込められていた「天岩戸（不自然観念）」を、自ら脱して出現して来そうなのです。

徳仁次代天皇が「人生の真実」に目覚め、再来のアマテラスすなわち赦世覚者天皇に、大変身される可能性が極めて高いのです。

本皇三重塔は、そんな赦世覚者天皇出現を誓願し、併せてその赦世大聖業を末永く顕彰するべく建立されたものです。

御神体には、ご成婚時の若き徳仁皇太子の等身大木彫彩色虫像をお祭り申し上げております。

平成三十年十二月吉日

覚者掃磨屋助次郎 謹言